

# 所 管 事 務 調 査 報 告

平成 27 年 12 月 18 日

薩摩川内市議会企画経済委員会  
委員長 川 添 公 貴

## 1 調査事項

- (1) 農林水産振興について
- (2) 商工業振興について
- (3) スポーツ振興について

## 2 調査先

岐阜県下呂市、愛知県一宮市

## 3 調査日

11月4日から6日まで（3日間）

## 4 出席委員

川添委員長、成川副委員長、江口委員、瀬尾委員、杉菌委員、小田原委員

## 5 調査目的

就農支援事業等の先進的な取組事例、本市で整備が予定されているコンベンションホール等の先進事例、総合体育館を生かした地域活性化の取組事例を調査し、本市における今後の施策展開の課題等を調査する。

## 6 調査概要

### (1) 新規就農支援の取組について（岐阜県下呂市）

下呂市は、平成17年に下呂地域担い手育成総合支援協議会を設置し、市の農林部農務課が事務局となり、飛騨農業協同組合、下呂市認定農業者協議会等の関係機関が連携して、就農を希望される方の相談から就農まで一貫した支援を実施しており、毎月1回の頻度で担当者レベルの情報共有・意見交換の場を設け、積極的に就農支援に取り組んでいる。

就農希望者の勧誘については、岐阜市や名古屋市等で行われる国・県主催の就農相談会等に積極的に参加している。また、就農希望者に対する研修は、現地見学、農業体験、短期研修へと内容の充実が図られ、農業の厳しさも体験できる内容となっており、先進農家において、実践的な栽培技術、農業経営を学ぶ研修を1年から2年かけて行っている。

このような取組により、平成23年度から現在までに18人の新規就農者が生まれており、年々増加傾向にある。

### (2) 尾張一宮駅前ビル「交流・文化拠点」整備事業について（愛知県一宮市）

平成24年9月に竣工した一宮市の尾張一宮駅前ビル（通称「iービル」）は、地上7階、延床面積約21,400㎡の複合施設である。1階が商業施設及び交番等、2階が貸会議室、3階がシビックテラス及び市民活動支援センター等、4階が社会福祉協議会等、5階が中央子育て支援センター等、6階がビジネス支援センター等、そして最上階の7階が400席を確保できる

シビックホール等となっている。また、2階から4階にかけて147台の車を収容できる駐車場を併設。また、5階から7階にかけては中央図書館も併設されている。建設費は、約64億5,000万円。平成20年2月にJR東海と年間約3,260万円で、52年6か月間の土地賃貸借契約を締結。施設管理は、民間に委託し、年間約1億1,400万円の経費が掛かっているとのことであった。

一宮市の駅前ビルは、「新市の顔」として鉄道、バスなどの交通結節点としての利便性を生かした市民に利用しやすい施設となり、中央図書館などの多様な機能の導入により、市民の交流が促進され、中心市街地全体の活性化につながっている。

また、駅前ビルに出店している民間事業者の収益の増、路線価の上昇及び若者の定住等が進み、税収等も上がったとのことであった。

(3) 一宮市総合体育館を生かした各種大会及びスポーツ合宿等の取組について  
(愛知県一宮市)

平成22年度に竣工した一宮市総合体育館は、メインアリーナ1室、サブアリーナ2室が主な施設である。事業費は約70億8,700万円で、「広域大会の開催が可能であること、誰でも楽しめる人に優しい施設であること、地域全体の魅力向上の核となること、更に地域防災に配慮したものであること」等が設計コンセプトとなっている。

年間の利用者数は約23万人で、平成26年度には規模の大きいスポーツ大会が16大会開催されている。その他、地場産業である繊維工業を生かしたファッションショーの会場としても活用されている。

スポーツ合宿等の積極的な誘致活動は行われていないが、県外からの利用者も多く、また、市街地の宿泊施設を利用していることから、一定の経済効果はあると思われるとのことであった。

## 7 所感

- (1) 下呂市での就農支援事業は、就農希望者へのきめ細やかな対応が就農へとつながっており、本市が就農支援事業を取り組む上でも、今以上の対応が必要である。
- (2) 一宮市尾張一宮駅前ビルは、子育て支援センターや中央図書館を入居・併設させることにより、多くの利用者があり、中心市街地全体の活性化につながっている。本市のコンベンションホールの整備に当たり、市民の意見を取り入れることで、より良い事業になると考える。
- (3) 一宮市総合体育館は、スポーツ競技以外にも利活用されており、本市でも同様の内容等を検討する必要がある。